

# 2019年日本経済の展望

三菱UFJモルガン・スタンレー証券景気循環研究所長

嶋しま中なか雄ゆう二じ

- \*戦後最長景気の後に来るものは何か
- \*米国好景気の内実を点検する
- \*日米の金利引き上げのタイミング
- \*ユーロ圏の景気は1月にも底入れか
- \*先進国より景気底入れが早い中国
- \*成果があつたアベノミクス
- \*2019年半ば以降、ドル安・円高に
- \*公共投資削減がGDP低迷の背景
- \*消費増税の影響を考える
- \*2027年までの景気動向を予想する



**柴生田** それでは開会いたします。（拍手）

改めてご紹介の必要もないかと思いますが、今日は嶋中雄二先生においでいただき、新年の経済展望をしていただくということでございます。たいへん明るい話になるかそうでないか、お聞きしないとわかりませんが、ぜひ今年の締めくりと来年の見方について、いつものように精緻な分析をしていただくということでございます。よろしくお願いいたします。（拍手）

**戦後最長景気の後に来るものは何か**

**嶋中** ただいまご紹介にあずかりました、三菱UFJモルガン・スタンレー証券の嶋中でございます。

毎年、年の瀬にこの経済倶楽部さんで来年の

景気がどうなるかということをお話ししているわけですが、昨年はそれほど外れなかつたほうかなと思うんですけれども。私も昨日、内閣府の景気動向指数研究会に委員として出ました。今回のいわゆるアベノミクス景気第16循環は、2012年の11月を谷として、その翌月から景気の拡張期間が始まったわけですが、14年の消費税等の影響もありましたけれども、何とかこらえていざなぎ超えと。いざなぎ景気というのは、東京オリンピックの後の昭和40年不況が終わったところから、つまり1965年11月から始まって1970年7月まで57カ月続いた景気の拡張期です。ちょうど大阪万博をやっている最中にピークアウトしたということでございます。これに17年の8月で並び、9月で抜